

2021年10月27日発行

Contents

- 1) 学会からのお知らせ
- 2) 健康心理学コラム vol. 106 「喫煙・禁煙の意思決定バランスと加熱式タバコについて」 山野 洋一 (立命館大学)

1) 学会からのお知らせ (<https://kenkoshinri.jp/>)

■日本健康心理学会第34回大会情報 (2021年11月15~21日, オンライン開催) (第34回大会準備委員会より)

(1) 大会プログラム公開の案内
大会プログラムが公開されております。ご確認ください。
大会プログラム URL: <http://kenkoshinri.jp/conf/34th/program.html>

(2) 大会発表論文集の Web 公開
第34回大会の発表論文集は、10月下旬頃に大会 HP 上で大会参加者に限定して公開する予定です。

(3) 大会参加方法
大会参加申込および参加費のお支払いの期限は10月30日(土)となっております。まだ大会参加申込がお済みでない方は、お早めの手続きをお願いいたします。
なお、大会参加申込手続きをお済ませいただいた方には、大会開催の約1週間前、視聴用のIDとパスワードをメールにて通知いたします(参加費納入済の方のみ)。詳細は、事務局からのメールをご確認ください。

(4) 講演・シンポジウム・研修会
第34回大会はオンライン開催のため、開催期間中は各種の講演・シンポジウムを皆さんの都合の良い時間に視聴することができます。多数の充実した委員会企画や会員企画のシンポジウム、研修会等が予定されています。大会準備委員会では、本大会のテーマ「アフターコロナ時代の健康心理学をめざして」に沿った講演やシンポジウムを企画しております。

詳細は、大会 HP < <http://kenkoshinri.jp/conf/34th/> > をご覧ください。
皆様のご参加およびご発表を心よりお待ちしております。

■2021年度「本明記念賞」授賞論文の決定 (本明記念賞選考委員会より)

『Journal of Health Psychology Research』第33巻に掲載された原著論文を対象に、①論文展開の論理性、研究の方法・技術の獨創性、②成果の学会・学界への貢献、③成果の健康心理・教育・保健・福祉実践への寄与、という3つの観点から慎重に審査した結果、以下の論文が2021年度「本明記念賞」授賞論文として決定いたしました。

著者：竹中 晃二・上地 広昭・吉田 裕
論文名：イフ・ゼン・プランを用いたメンタルヘルス・プロモーション活動の行動変容介入—準実験的研究—

なお、日本健康心理学会第34回大会はweb開催のため、受賞記念講演はオンデマンド方式で皆様に公開致します。

詳しくは大会 HP < <https://kenkoshinri.jp/conf/34th/> > をご参照ください。

■第124回/125回 健康心理学研修会のお知らせ (研修委員会より)
研修会は「コロナ禍での健康心理士の役割と実践 part2」をテーマとし、第34回バーチャル大会にて124回「心と身体をつなぐトラウマセラピー—自律神経を軸にウェルネスを考える—」、125回「健康心理士としてのセルフケアサポート：マインドフルネスの視点から」を開催いたします。

事前申し込み/事前振り込み制です。お申込みは、第34回大会研修会のお知らせ、又は学会ホームページ「研修会」 < <http://kenkoshinri.jp/kensyu/kensyu2.html> > から受け付けております。一般の方のお申込みも可能です。多数のご参加お待ちしております。

■他学会からのお知らせ (学会事務局より)

第1回ダイアログ国際会議として、DICO (ダイアログ国際会議オンライン) を2021年11月19日~22日にオンライン上で開催します。ご興味のある方はぜひご参加ください。

DICO HP (英語) : <https://dlg-japan.net/>

DICO HP (日本語) : <https://dlg-japan.net/japanese>

プレカンファレンス (日本語のみ) : <https://dlg-japan.net/preconferencej/>

■Journal of Health Psychology Research の Vol. 34, No. 1 が J-STAGE にて公開されています

掲載論文は、下記 URL からご覧いただけます (閲覧には購読者番号とパスワードが必要です)。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jhpr/list-char/ja>

*購読者番号およびパスワードは、下記の会員専用ページでご確認いただけます。

https://www.mmb-sys.jp/pacmmb/index/jahp/enter_page.aspx

<原著>

・秋山 久美子 (他) パチンコ・パチスロの“参加量が多い非障害疑い”プレイヤーの実態—デモグラフィック特性・プレイスタイル—

<資料>

・Hiroshi Matsumoto (他) A revised Self-determined Motivation Scale for Exercise with integrated regulation inclusion.

<事例研究>

鈴木 公洋 (他) 認知症高齢者と家族や友人との遠隔コミュニケーション (4例) —前頭前野刺激、ストレス状態、ポジティブ感情喚起計測の予備的検討—

2) 健康心理学コラム Vol. 106

「喫煙・禁煙の意思決定バランスと加熱式タバコについて」
山野 洋一 (立命館大学)

喫煙に対する健康への影響に関する社会的な知識の普及や規制などにより、公共の場では喫煙をする人は見かけなくなりました。また、禁煙治療に保険診療が適用され、禁煙をする人も増えています。喫煙者が禁煙をするという行動変容には、喫煙・禁煙の意思決定のバランスが関係します (山野他, 2020)。意思決定のバランスとは、その行動をおこなう場合のメリット・デメリットのことを指します。例えば喫煙のデメリットには、自身の健康への影響だけではなく、周囲に迷惑をかける、臭いが気になるなど様々なものがあります。喫煙のメリットよりもデメリットを多く感じた場合に禁煙に対する心構えが整います。しかし、2017年ごろから加熱式タバコが日本では普及し始めました。

2018年には、国内のタバコ市場全体の15.5%のシェアに達したという報告もあります (Sutanto et al., 2019)。加熱式タバコには、従来の紙巻きタバコと異なり、煙や臭いも少なく、周囲に悪影響がないような誤解が生じる可能性があります。また、喫煙者の呼気には一酸化炭素が多く検出されるのですが、加熱式タバコでは、一酸化炭素が検出されないため、健康への影響もないと誤解されるかもしれません。従来の喫煙者が感じていた喫煙のデメリットを知覚できなくなるため、禁煙支援をより難しくする可能性があります。また、加熱式タバコの研究は少なく、今後の動向を見ていく必要があると考えられます。

引用文献

Sutanto, E., Miller, C., Smith, D. M., O'Connor, R. J., Quah, A. C., Cummings, K. M., ... & Goniewicz, M. L. (2019). Prevalence, use behaviors, and preferences among users of heated tobacco products: findings from the 2018 ITC Japan Survey. *International journal of environmental research and public health*, 16(23), 4630.

山野 洋一・島井 哲志・大野 太郎・山田 富美雄 (2020). 日本語版喫煙意思決定バランス尺度の作成—The Decisional Balance Scaleの日本語版の作成とその信頼性と妥当性の検討—. *禁煙科学*, 14, 1-12.

日本健康心理学会広報委員会

<http://jahp-public.blogspot.jp/>

メールマガジンの配信停止、アドレス変更は下記アドレスまで

日本健康心理学会事務局 < jahp@pac.ne.jp >

メールマガジンへのご意見・ご感想は下記アドレスまで

広報委員会 < jahp@pac.ne.jp >

過去のメールマガジンは、こちらからご覧いただけます

<https://kenkoshimri.jp/health/health1.html#mailmaglist>